

東白杵南部地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年1月 東白杵農林振興局
(東白杵南部農業改良普及センター)



東白杵南部農業改良普及センター
ホームページ

目次

- I 管内農業・農村の出来事や新たな動き (P 2)
 - 1 【日向市】東郷まちづくり協議会葉草部会が宮崎日日新聞農業技術賞を受賞
 - 2 【門川町】農事組合法人設立に関する意見交換会を開催
 - 3 【門川町】門川町SAP会議が小学生を対象に食育活動を実施
 - 4 【椎葉村】ほうれんそう専門部が産地戦略ビジョンを策定

- II 主な普及指導活動等の取組
 - 1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動 (P 3～4)
 - [総合：担い手確保・育成、雇用労力の確保、中山間地域づくり 等]
 - [専門：茶(中山間)、肉用牛繁殖(若手)、冬春ミニトマト、ほうれんそう(椎葉)、へべす、スイートピー 等]
 - 1 【日向市】畜産の事業承継相談
 - 2 【日向市・美郷町】就農への道筋をサポート
 - 3 【美郷町】加工グループのレシピ継承と作業計画作成を支援
 - 4 【美郷町】美郷町さいごう完熟金柑部会が出荷目揃え会を開催
 - 5 【日向市】大規模へべす園地における省力化技術の現地検討を実施
 - 6 【椎葉村】若手農業者の就農状況検討会を開催
 - 7 【椎葉村】ほうれんそう実績検討会を開催
 - 2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動(一般活動) (P 5～6)
 - 1 【日向市】令和8年産水稲の品質向上に向けた栽培管理講習
 - 2 【美郷町】地元の小中学生に向けたみやざき地頭鶏の食育授業
 - 3 【全域】敷料・堆肥をテーマにしたNOSAI・普及センター共同研修会
 - 4 【諸塚村】夏秋ミニトマト実績検討会で病害虫の注意喚起を実施
 - 5 【日向市】促成きゅうりの温度管理設定を検討
 - 6 【日向市・諸塚村・美郷町】日向地区営農振興協議会花き部会視察研修を開催

I 管内農業・農村の出来事や新たな動き

1 【日向市】東郷まちづくり協議会薬草部会が宮崎日日新聞農業技術賞を受賞

16日、宮崎市の宮日会館で宮崎日日新聞農業技術賞贈呈式が開催され、薬草による地域の特産品づくりやまちおこしにつながる活動を評価された「東郷まちづくり協議会薬草部会」（会員17名）が受賞し、会長が贈呈を受けました。

授賞者あいさつでは、鈴野浅夫会長が「受賞は支援していただいた関係者のおかげ。ノウハウのない中委託を受け、薬草栽培に取り組んできた。今後とも一歩ずつであるが生き生きとした地域づくりに向け特産品化に取り組みたい。」と感謝や今後の意気込みを述べられました。



【受賞者あいさつを行う鈴野氏】

2 【門川町】農事組合法人設立に関する意見交換会を開催

6日、門川町役場で農業者5名と関係者3名が参加し、農事組合法人設立に関する意見交換会を行いました。地域の農地が耕作放棄地とならないよう、集落で守っていく方法を検討したいとの農業者からの相談を受けて実施したものです。

普及センターからは、法人化のメリットとデメリットの確認や、経営の方向性を左右する議決権のあり方、事業計画、収支計画の作成が必要であることなどについて説明しました。

地域の現状に向き合い将来にバトンを繋ぐための取組を進めることは、大変素晴らしいことです。ただし、法人化については、集落内で合意形成の話合いを時間をかけて行うなど、しっかり準備する必要があります。今後、専門家派遣事業を活用し、最良の選択ができるようサポートしていきます。

3 【門川町】門川町SAP会議が小学生を対象に食育活動を実施

9日、門川町立草川小学校で、門川町SAP会議の会員ら4名が、3年生の児童を対象に大根の収穫体験を実施しました。

当日は、会員から大根の収穫方法や栽培について説明があった後、児童とともに収穫作業を行いました。普及センターも収穫作業を補助しながら、一緒に作業を進めました。児童たちに、実際に土に触れながらの収穫体験を通じて、農業や食への理解を深める貴重な機会となりました。

門川町SAP会議は今年度をもって活動を一旦休止しますが、普及センターとしては、今後も青年農業者に対する支援を継続していきます。



【大根収穫体験】

4 【椎葉村】ほうれんそう専門部が産地戦略ビジョンを策定

23日、椎葉村交流拠点施設Katerieで、「産地戦略ビジョン」の検討を行いました。

令和6年1月から検討してきた「産地戦略ビジョン」について、これまでの話合いで検討した目標値や取組項目、各取組の開始時期について、駐在がまとめた資料をもとに協議しました。ほうれんそう専門部長からは、生産・販売・担い手確保の共通する目標を持って取り組む必要性について部会員に語りかけが行われ、生産者同士の意見交換が活発に行われました。その上で、産地戦略ビジョンについての合意を確認し、同日付けで承認されました。

5年後、10年後の将来予測を踏まえた「みんなで実現する未来の形“目指せ反収200万円!!”の合い言葉の元、令和8年度のほうれんそう専門部の年間活動計画から取組項目を実践していくこととなりました。



【ほうれんそう産地目標や取組項目を検討】

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト（総合、専門）に関する普及活動

[総合：担い手確保・育成、雇用労力の確保、中山間地域づくり 等]

[専門：茶(中山間)、肉用牛繁殖(若手)、冬春ミソバ、ほうれんそう(稚葉)、へべす、アトピー 等]

1 【日向市】畜産の事業承継相談

20日に、日向市の農場で肉用牛繁殖農家の事業承継に関する相談を受けました。

相談者からは、高齢の親世代からすぐにでも経営移譲したいとの意向が示されましたが、特に畜産経営体は所有資産が高額であるため、資産評価を行った上で、どのような承継のあり方が望ましいか検討する必要があります。そこで、今後農業経営者サポート事業等を活用して、約1年かけて専門家による支援も受けながら、経営移譲の準備を進めることとなりました。

今後も相談会を適宜実施し、伴走支援に取り組んでいきます。

2 【日向市・美郷町】就農への道筋をサポート

1月は、日向市で2件の就農相談、美郷町で1件の就農計画検討があり、関係機関と連携して対応しました。

就農相談では、就農前の研修や法人就農に関する相談が寄せられ、将来的な就農に向けた前向きな情報提供を行いました。

就農計画検討では、数年後の就農を見据えた具体的な計画作成を支援し、就農希望者が就農へ一歩近づく手助けとなりました。

今後も関係機関と連携を図りながら、就農希望者の実情に応じた的確な情報提供と支援に努めていきます。

3 【美郷町】加工グループのレシピ継承と作業計画作成を支援

8日、美郷町の食品加工場で、加工グループメンバー2名と普及センター職員1名でレシピ継承に向けた検討を行いました。

検討では、これまで整備してきた加工レシピをメンバーに共有し、作業工程や分量などについて最終確認を行いました。

また、作業日誌をもとに現在の製造の作業ペースや課題について聞き取りを行い、安定した供給に向けたスケジュール管理の見直しや、より効率的な作業計画の作成について、年度内に検討を進めることとしました。

4 【美郷町】美郷町さいごう完熟金柑部会が出荷目揃え会を開催

9日、JA西郷支店で、美郷町さいごう完熟金柑部会の生産者25名、関係者5名が参加して完熟金柑の出荷目揃え会が開催されました。

JAから出荷要領等の説明が行われた後、出荷目揃えでは生産者が果実を見たり、実際に触ったりしながら、選別基準を確認しました。

普及センターからは12月25日、1月6日の果実分析結果と着色状況を踏まえた収穫のタイミングや、寒暖差による温度管理への注意喚起等を指導しました。

今年産は一部高温によるものを除き生理落果が少なく、着果数も多い傾向です。また、着色も良好で1月から3月にかけて、順次収穫が行われます。



【金柑出荷目揃え会】

5 【日向市】大規模へべす園地における省力化技術の現地検討を実施

14日、日向市東郷町の（株）ひむか農園園地で、省力化技術の現地検討を実施し、法人から3名、関係者5名が参加しました。

当日は県総合農業試験場から果樹専技や果樹部の研究員による省力化技術「垣根仕立て」や「トリマー剪定」に係る現地指導が行われました。

これらの剪定方法は、バリカンで一気に剪定できることから、作業の重なる時期の省力化や特段の技術がない方でも取り組みやすい方法となっています。

当該法人からは「非常に剪定が簡単で管理も楽だと思った。今後、当園地での適合性を試してみたい」との感想があり、展示ほを設置して調査を行うことになりました。

普及センターとしても関係者と連携しながら、大規模へべす園地における省力化技術について支援していきます。



【へべす現地検討】

6 【椎葉村】若手農業者の就農状況検討会を開催

15日、JA椎葉営農センターで、就農2年目の若手農業者1名と、関係者4名で、就農状況検討会を行いました。

作付け実績では、青果用ほうれんそうの一昨年の部分的な生育不良の対策として客土を行い、栽培改善が図られたことや、計画的な播種で出荷量が前年比1.5倍に伸びた一方で、作業の段取りの改善や労働力の確保が課題であることが確認できました。

また、本人が作成した年間計画を基に関係者が提案を行いました。農業者は目標達成に向けた作付計画の精度向上と実践を行うこととなり、生産意欲の向上につながりました。



【若手農業者次年度計画を真剣に検討】

7 【椎葉村】ほうれんそう実績検討会が開催

23日、椎葉村交流拠点施設Katerieで、生産者6名及び関係者4名が参加し、ほうれんそう実績検討会が行われました。

令和7年の実績は出荷量31t（2～12月 前年対比93%）、販売額3千万円（前年対比91%）となり、生産量が伸び悩んだ要因として、夏期高温や日照不足による生育不良で盛夏時期の収量が減少したことが大きく影響しました（8～9月 前年対比65%）。

また、加えて、近年では収穫時の労力不足も課題の一つとなっています。その解消に向けて、外国人材の活用事例を視察する動きもでてきており、会の中でも労力確保の検討を進めていくべきだとの意見が出されました。



【ほうれんそう今年度実績を検討】

2 プロジェクト（総合、専門）以外の普及活動（一般活動）

1 【日向市】令和8年産水稻の品質向上に向けた栽培管理講習

20日、JA経営支援センターで生産者12名と関係者4名が参加し、ひむか米振興協議会日向支部の講習会が開催されました。

JA担当から令和7年産水稻の生育概況や米の検査結果について説明が行われた後、普及センターから令和8年産水稻の栽培管理について、代掻きから中干し管理までのポイントを説明しました。

あわせて、先日名称が公表された普通期水稻の新品種「ひなた舞」（南海189号）について、管内での令和7年の試作結果や今後の振興方針の説明を行いました。

生産者からは「米の収穫適期の判断基準を教えて欲しい」や「ひなた舞は早期の期間に栽培できないのか」など積極的な質問があり、品質向上に向けた意欲を感じられました。



【栽培管理について
熱心に聴き入る参加者】

2 【美郷町】地元の小中学生に向けたみやざき地頭鶏の食育授業

23日、美郷町立美郷北義務教育学校で、幼稚園児から中学3年生までの75名を対象に、みやざき地頭鶏事業協同組合によるみやざき地頭鶏食育授業が開催され、普及センターは講話担当として参加しました。

講話では、みやざき地頭鶏の血統の話や、飼育方法、美郷町周辺での生産状況をクイズ形式で紹介し、生産者の取り組みについて学んでもらいました。その後、生産者による炭火焼きのふるまいが行われました。

地産地消の取り組みを支援することができ、試食後率先して生産者に質問する児童もみられ、あたたかい交流となりました。



【みやざき地頭鶏について
クイズで学ぶ児童】

3 【全域】敷料・堆肥をテーマにしたNOSAI・普及センター共同研修会

23日、延岡地域家畜市場及びサテライト会場（諸塚村・椎葉村）で管内の畜産農家を対象に、NOSAIと普及センター（東臼杵南部、東臼杵北部）による共同研修会を開催し、畜産農家35名、関係機関8名が参加しました。

研修では、「畜産のムリと無駄を省く～実はかなり重要！敷料と堆肥～」と題し、普及センターからは適切な堆肥化の重要性等を、NOSAIからは敷料・堆肥が疾病に及ぼす影響等について説明がありました。研修会後には農家から堆肥化のポイントや雑草への影響に関する質問が積極的に挙がり、堆肥・敷料の重要性を再認識する有意義な研修となりました。



【NOSAI・普及センター
合同研修会】

4 【諸塚村】夏秋ミニトマト実績検討会で病害虫の注意喚起を実施

14日、JA諸塚支店で生産者10名、関係者5名、メーカー2名が参加し、令和7年産諸塚村夏秋ミニトマト実績検討会が行われました。

令和7年作の年間実績は出荷量59t（前年対比93%）、販売額51,270千円（前年対比95%）で、定植初期の低温による活着不良や夏期の病害虫等の影響で前年より出荷量や販売額は減少したものの、全体的に高単価で推移しました。

普及センターからは、全国的に発生が確認されているトマトキバガ対策と、7年作で課題となったコナジラミ類対策について、資料を用いて説明し注意喚起を行いました。

種苗及び資材メーカーからは資材や品種、栽培時の管理について情報提供があり、生産者からも活発な意見が出され、栽培意欲向上につながる有意義な実績検討会となりました。



【夏秋ミニトマト実績検討会】

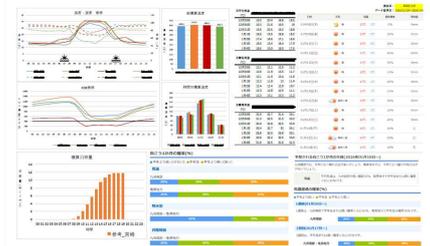
5 【日向市】促成きゅうりの温度管理設定を検討

9日、管内のきゅうり生産者2名が参加する「みやざきデジタル施設園芸産地構築プロジェクト」（通称Dプロ）の地域ワーキンググループが開催され、生産者2名と関係者3名が出席し、1月の温湿度管理やかん水管理等の栽培管理について検討を行いました。

今回は県内の生産者の栽培環境データ比較と県内の気象データや10日間の天気予報等が記された「環境データの分析シート」を用いて管理の振り返りと今後の管理方針についての意見交換を実施しました。

冬至を過ぎ、日射量は増加に転じていますが、気温は2月下旬まで低い傾向です。そのような条件の中で、光合成を最大化するため、暖房機の設定温度、二重カーテンや外張りの開閉幅とタイミングについてデータをもとに生産者と関係者で考察を深める議論を展開しました。

生産者からは、今回の検討を受け、2月の曇雨天時の暖房機設定について、改善できる点は実施していきたいという意見があり、データに基づき予測を立てて環境管理を目指す発言として手応えを感じました。



【環境データの分析シート】

6 【日向市・諸塚村・美郷町】日向地区営農振興協議会花き部会視察研修を開催

27日、延岡市北川のシキミ生産者園地で関係者7名が参加し、東臼杵管内で発生しているシキミの立枯症について意見交換を行いました。延岡市の生産者からは立枯症の発生が少ない系統や挿し木に関する知見、施肥の時期や回数について情報提供がありました。

普及センターからは、これまでに実施した試験の結果や、県外視察で情報収集した他産地の現状を共有しました。今回の視察で得た知見等を活かしながら、引き続き立枯症対策に取り組んでいきます。



【シキミ現地検討】